

愛知淑徳大学の学生がホンダ販売店などを傘下に置くICDAホールディングス（HD）、本社鈴鹿市）の企業分析を行い、19日の授業で向井弘光社長ら同社関係者の前で発表した。

授業は、ビジネス学部現代ビジネス専攻ビジネス愛知淑徳大生

スアカウンティングコースの3年生を対象にした必須科目「企業分析プロジェクト」で、特定企業の現状や課題を分析するという内容。ICDAHDは昨年11月、企業分析の参考にしてもらおうと、自社の会社概要や事業の強みなどについて講義している。

ICDAホールディングスを分析

新車販売などで高い営業力



学生たちの発表について感想を述べる向井社長

19日の発表では、学生19人が五つのゼミグループに分かれて発表した。

財務分析グループは、

同社の強みとして、自動車販売の高い営業力を紹介。ホンダの新車販売の台数伸び率について、ICDAHDと、他のホン

ダ販売店全体の平均を比較するとICDAHDがおしなべて上回り、輸入車でも同様の傾向がみられた。

株主還元・株式市場の評価をテーマにしたグル

ープでは、株価関連指標を同業他社と比較。ICDAを含む比較企業がPBR（株価純資産倍率）の1倍割れしていることを指摘し、配当政策の見直しやIR活動の強化などを提案した。

このほか、有価証券報告書、会社四季報、「5フォース分析」などについてもそれぞれ発表した。

向井社長は「鋭く非常に素晴らしい分析だった」と学生たちの頑張りを評価。その上で「課題については、経営者として真摯（しんし）に受け止め、改善に努めていく」と強調した。

向井社長、鋭い指摘を評価

（四日市）